

<霊的備え>

幸いなことよ 悪しき者のはかりごとによらず 罪人の道に立たず 嘲る者の座に着かない人。
主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。
その人は 流れのほとりに植えられた木。
時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。(詩篇 1：1-3)

<理解の手引き>

ここには天地万物の初めについての宣言があります。初めは神のほか何ともありませんでした。しかし、ここでの初めはヨハネ 1章 1節の「初め」とは違います。ヨハネの場合はまさに「永遠の初め」を意味しています。しかし、この創世記では神の創造によって始められる「時間と歴史」の初めであり、「万物」の初めを意味しています。

この世界がどのように誕生したかについては大きく二つの考え方があります。一つは進化論の言うように、この世界は偶然に誕生したのであって、創造者など存在しないとする考え方です。もう一つの考え方は、聖書が教えるように、この世界は創造者である神によって造られたとする考え方です。残念ながら「世界の初め」について実験し、証明することはできません。私達は、この世界を注意深く観察することによってどちらの世界観に立つか選択しなければなりません。しかし、神による創造を信じる者には、確かな生きる目的と意味が与えられているのです。我々の存在、人生は決して偶然の意味のないものではないのです。

<考えてみよう>

(観察) 神はどんな方法で、またどんな順序で世界を創造されましたか？ (動詞に注目)

.....
.....
.....

(解釈) 神は、どんな点が人間と似ており、どんな点が人間よりもすぐれていますか？

.....
.....
.....

(適用) 神による創造の事実は、あなたの人生にどんな意味を与えてくれますか？

.....
.....
.....

<心に残ったみことばや気づき>

.....
.....
.....

<今日の祈り> (教えられたことを短い祈りで表す)

.....
.....
.....